



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月6日

上場会社名 日本ライフライン株式会社 上場取引所 東
コード番号 7575 URL <https://www.jll.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 啓介
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理統括部長 (氏名) 江川 毅芳 TEL 03-6711-5200
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日
配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	25,132	△1.4	5,472	6.9	5,621	10.0	4,033	9.0
2023年3月期第2四半期	25,489	1.4	5,119	9.4	5,113	6.2	3,702	3.1

（注）包括利益 2024年3月期第2四半期 4,187百万円（4.4%） 2023年3月期第2四半期 4,009百万円（3.8%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	52.41	—
2023年3月期第2四半期	47.27	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	69,550	55,502	79.8
2023年3月期	74,641	56,195	75.3

（参考）自己資本 2024年3月期第2四半期 55,502百万円 2023年3月期 56,195百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	38.00	38.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	42.00	42.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有
配当予想の修正については、本日（2023年11月6日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正のお知らせ」をご覧ください。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,680	△2.1	10,945	1.0	10,844	△0.6	7,902	14.7	103.81

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
連結業績予想の修正については、本日（2023年11月6日）公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正のお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：有
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	82,919,976株	2023年3月期	82,919,976株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	6,837,206株	2023年3月期	4,999,561株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	76,962,057株	2023年3月期2Q	78,312,608株

(注) 当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、信託が所有する当社株式は「（4）発行済株式数（普通株式）」において自己株式として取り扱っております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(会計方針の変更)	12
3. その他	13
生産、受注及び販売の状況	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間末現在において当社グループが判断したものであります。

(経営環境について)

当第2四半期連結累計期間は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更されたことを背景に、事業環境は概ね良好に推移しました。

当社の業績への影響度が特に大きい心房細動（AF）のアブレーション治療の症例数は、自社推計ベースで前年同期比9%程度増加し、期初で想定した水準（同期ベースで6%程度の増加）を上回りました。主力事業であるEP/アブレーションの自社製品は前年同期比9～15%程度の増収となり、業績をけん引しました。

また、重点施策の1つである「新領域の拡大」は順調に進捗し、業績の底上げに寄与しました。脳血管領域では、塞栓用コイルの販売実績が計画を大きく上回りました。さらに、新たに発売した急性期脳梗塞の治療デバイスである血栓吸引カテーテル「Esperance（エスペランス）」も良好な立ち上がりとなりました。消化器領域では、自社製の胆管チューブステント「REGULUS（レグルス）」の販売が好調に推移し、発売後約1年で10%程度の市場シェアを獲得しました。

一方、EP/アブレーションの重要商品であった「RF Needle（アールエフニードル）」は、前連結会計年度末で当社による独占販売が終了し、当連結会計年度から、販売支援サービスを提供する形に商流が変更されました。商流変更は減収要因となりましたが、販売支援サービスは商品仕入を伴わないため、売上総利益率を改善する方向に寄与しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は前年同期比で1.4%減少したものの、売上総利益の伸びにより販売費及び一般管理費の増加を吸収し、各段階利益は前年同期比で増益となり、各利益率も改善しました。

なお、外国為替相場の状況は、日本円は対米ドルで大幅に円安が進みましたが、損益に対しては大きな影響はありませんでした。当社の商品仕入の約70%が円建てであり、売上原価の計算に移動平均法を用いているため、一部の仕入商品や部材において一時的な調達コストの上昇が生じても、その影響は長期間にわたって平準化されること等が主な理由です。

(業績について)

当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区分	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		増減	増減率
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)		
① 売上高	25,489	100.0	25,132	100.0	△356	△1.4%
② 売上総利益	14,546	57.1	15,231	60.6	684	4.7%
③ 営業利益	5,119	20.1	5,472	21.8	353	6.9%
④ 経常利益	5,113	20.1	5,621	22.4	508	10.0%
⑤ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,702	14.5	4,033	16.0	331	9.0%

① 売上高

前年同期と比べ、356百万円減収の25,132百万円となりました。詳細は後段の「品目別売上高」に記載しております。

② 売上総利益

前年同期と比べ、684百万円増加の15,231百万円となりました。AF症例数の増加による自社製品の増収、「RF Needle」の商流変更による仕入商品の減収等により、自社製品比率は前年同期比で5.2pt高い59.1%となりました。さらに、棚卸資産の廃棄損・評価損が前年同期と比べ141百万円減少しました。これらを受け、売上総利益率は前年同期に比べ3.5pt高い60.6%となりました。

③ 営業利益

前年同期と比べ、353百万円増加の5,472百万円となりました。販売費及び一般管理費は、一時的な雑収入の発生や研究開発費の減少等があったものの、賞与引当金繰入額の増加や営業活動量の増加に伴う販売関連費用の増加等があったため、前年同期に比べ増加しました。この結果、営業利益率は前年同期に比べ1.7pt高い21.8%となりました。

④ 経常利益

前年同期と比べ、508百万円増加の5,621百万円となりました。営業外収益として受取利息等で254百万円、営業外費用として一般貸付債権に関する貸倒引当金繰入等で105百万円を計上しました。

⑤ 親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期と比べ、331百万円増加の4,033百万円となりました。税額控除等の影響により、法人税等の負担率は28.3%となりました。

(品目別売上高)

(単位：百万円)

区分	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	増減	増減率
リズムデバイス	6,293	6,671	377	6.0%
EP/アブレーション	13,012	12,144	△867	△6.7%
心血管関連	5,109	5,646	536	10.5%
消化器	1,073	668	△404	△37.7%
合計	25,489	25,132	△356	△1.4%

※各品目区分に分類される主たる商品は以下のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来の「外科関連」を「心血管関連」に、従来の「消化器/PI」を「消化器」に名称変更しており、心房中隔欠損閉鎖器具は、旧区分の「消化器/PI」から新区分の「心血管関連」へ区分を変更しております。前第2四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分に組み替えた数値で算出しております。

リズムデバイス	心臓ペースメーカー、T-ICD（経静脈植込み型除細動器）、S-ICD（完全皮下植込み型除細動器）、CRT-P（両心室ペースメーカー）、CRT-D（除細動機能付き両心室ペースメーカー）、AED（自動体外式除細動器）
EP/アブレーション	EP（電気生理用）カテーテル、アブレーションカテーテル、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル、心腔内除細動カテーテル、食道温モニタリングカテーテル、スティラブルシース
心血管関連	人工血管、オープンステントグラフト、ステントグラフト、塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル、心房中隔欠損閉鎖器具
消化器	胆管チューブステント、胆管拡張バルーン、胆道鏡システム、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステント、肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針

① リズムデバイス

ペースメーカー関連は、前年同期に比べ0.2%の増収となりました。第1四半期は販売が好調に推移したものの、第2四半期は他社の新製品の影響を受け、低調に推移しました。この結果、第2四半期連結累計期間の市場シェアはほぼ横ばいとなりました。

ICD関連は、前年同期に比べ9.4%の増収となり半期ベースで過去最高を更新しました。S-ICDについては、市場でオンリーワンであるため、戦略的商品として全国的な拡販施策への注力を継続しました。その結果、新規採用施設の増加やリピート率の向上により、販売は市場の成長を大幅に上回るペースで推移しました。一方、T-ICDについては、販売は前年同期並みで推移しました。

以上により、リズムデバイスの売上高は、6,671百万円（前年同期比6.0%増）となりました。

② EP/アブレーション

EPカテーテルは、前年同期に比べ10.3%の増収となり半期ベースで過去最高を更新しました。AF症例数が前年同期比9%程度の増加となったことを背景に、心腔内除細動カテーテル「BeeAT（ビート）」、EPカテーテル「EP Star（イーピースター）」、食道温モニタリングカテーテル「Esophastar（エソファスター）」等の自社製品は、前年同期比9～15%程度の増収となりました。特に、「Esophastar」については、他社製品の供給不足といった背景もあり、症例数の伸び率以上の増加となりました。

アブレーションカテーテルは、前年同期に比べ16.1%の減収となりました。内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight X3（ハートライト・エックススリー）」は、仕入先メーカーにて原材料不足の問題が発生し、商品が供給不足となったことの影響がありました。仕入の状況は第2四半期では若干の改善がみられたものの、販売は引き続き低調に推移しました。

その他については、「RF Needle」の商流が変更されたことにより、前年同期に比べ65.7%の大幅な減収となりました。

以上により、EP/アブレーションの売上高は、12,144百万円（前年同期比6.7%減）となりました。

③ 心血管関連

人工血管関連は、前年同期に比べ5.0%の増収となりました。自社製品の人工血管「J Graft（ジェイグラフ）」及び仕入商品の腹部用ステントグラフトは、横ばいの市場の中で着実にシェアを伸ばしました。また、自社製品のオープンステントグラフト「Frozenix（フロゼニクス）」の販売も、前年同期を上回り堅調に推移しました。「Frozenix」は心血管領域の成長ドライバーであり、2023年8月には新たなラインナップである「Frozenix Partial ET（フロゼニクス・パーシャルイーティアー）」を発売しました。同製品は従来品を使用していない新規顧客の開拓が期待できるため、今後重点的に拡販に取り組んでいきます。

脳血管関連は、前年同期に比べ約6.1倍の大幅な増収となりました。脳血管領域の拡大は、中期的な重点施策の1つとして掲げており、今後の数年間で10品目程度の商品展開を予定しております。

塞栓用コイル「Avenir（アベニア）」の販売は、引き続き好調に推移しました。第2四半期に追加モデルとして「Avenir Pico（アベニア・ピコ）」を発売したことで、市場への浸透がさらに進みました。さらに、第1四半期に発売した血栓吸引カテーテル「Esperance（エスペランス）」は、良好な臨床評価のもと、販売は計画を大幅に上回り進捗しました。

その他については、前年同期に比べ1.3%の減収となりました。小児の心房中隔欠損症のカテーテル治療の症例数が低位で推移したこと等を受け、心房中隔欠損閉鎖器具は減収となりました。

以上により、心血管関連の売上高は、5,646百万円（前年同期比10.5%増）となりました。

④ 消化器

消化器関連は、前年同期に比べ53.5%の増収となりました。同領域では、自社製品の拡大を中期的な重点施策としております。胆管チューブステント「REGULUS（レグルス）」は、デリバリー性能の高さが医療現場の高評価につながり、当第2四半期連結累計期間末時点で、約10%の市場シェアを獲得しております。また、肝臓治療用ラジオ波焼灼電極針「arfa（アルファ）」もジェネレータの販促を行ったことで、販売は堅調に推移しました。

その他については、薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro（オシロ）」を含む कोरोナリー・インターベンション（CI）関連の販売が縮小したことで、前年同期に比べ71.3%の減収となりました。当社は同事業領域からの撤退を決定しており、当連結会計年度中にCI関連製品の販売を終了する予定です。

以上により、消化器の売上高は、668百万円（前年同期比37.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(四半期連結貸借対照表に関する分析)

① 資産

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べ6,188百万円減少し、40,941百万円となりました。これは主として、法人税等の支払い、配当金の支払いならびに自己株式の取得等により現金及び預金が6,772百万円減少したことによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ1,098百万円増加し、28,608百万円となりました。これは主として、投資その他の資産のうち「その他」に含まれている繰延税金資産が378百万円減少した一方で、投資有価証券が1,511百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末から5,090百万円減少し、69,550百万円となりました。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債が前連結会計年度末に比べ2,102百万円減少し、12,279百万円となりました。これは主として、短期借入金が1,500百万円、未払法人税等が195百万円減少したことによるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ2,294百万円減少し、1,769百万円となりました。これは主として、退職給付に係る負債が1,981百万円、長期借入金が234百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末から4,397百万円減少し、14,048百万円となりました。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ693百万円減少し、55,502百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益を4,033百万円計上した一方で、剰余金の配当を2,965百万円実施したこと、ならびに自己株式が1,944百万円増加したことによるものであります。

(連結キャッシュ・フロー計算書に関する分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ6,772百万円減少し、11,584百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、1,873百万円（前年同期は6,000百万円の収入）となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益が5,626百万円あった一方で、キャッシュ・フローの減少要因として退職給付に係る負債の減少が1,966百万円、法人税等の支払額が1,591百万円となったことによるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、1,770百万円（前年同期は1,951百万円の支出）となりました。これは主として、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入（前期に実施した売却代金の一部を当期に回収）として459百万円あった一方で、投資有価証券の取得による支出が1,417百万円、有形固定資産の取得による支出が441百万円、無形固定資産の取得による支出が368百万円となったことによるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、6,884百万円（前年同期は6,030百万円の支出）となりました。これは主として、配当金の支払額が2,966百万円、自己株式の取得による支出が2,005百万円、短期借入金の返済による支出が1,500百万円となったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、最新の業績見通しを精査した結果、2023年5月10日に公表した2024年3月期の業績予想を下記の通り修正しました。

2024年3月期通期業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (2023年5月10日発表)	百万円 48,807	百万円 9,763	百万円 9,531	百万円 6,854	円 銭 89.13
今回発表予想 (B)	50,680	10,945	10,844	7,902	103.81
増減額 (B-A)	1,872	1,181	1,312	1,047	—
増減率 (%)	3.8	12.1	13.8	15.3	—

上期（2023年4月1日から2023年9月30日）は、新型コロナウイルスの影響が終息に向かったことを背景に、当社の事業環境は想定よりも良好でした。その結果、EP/アブレーションや脳血管領域の販売が予想よりも好調に推移し、売上高は期初予想（2023年5月10日発表）を5.2%上回りました。また、販売費及び一般管理費については、新基幹システムの稼働時期の変更やその他案件の執行時期の遅れ等があり、期初予想を1.7%下回りました。これを受け、営業利益は期初予想比21.9%、経常利益は同25.0%、親会社株主に帰属する四半期純利益は同24.7%、それぞれ上回りました。

下期（2023年10月1日から2024年3月31日）の業績について精査を行った結果、EP/アブレーションや心血管関連を中心に販売は引き続き好調である見通しです。さらに、期初予定していなかった新商品（大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」）の販売が第3四半期から加わり、通期の売上高は期初予想に比べ3.8%上回る見通しとなりました。また、販売費及び一般管理費については、下期は上期から執行が遅れた費用が発生するため、通期ではほぼ期初予想並みの水準となる見通しです。以上を踏まえて、通期の業績予想について、売上高及び各段階利益を上方修正しました。

※ 上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,357	11,584
受取手形及び売掛金	13,223	12,755
棚卸資産	13,142	13,764
その他	2,406	2,837
流動資産合計	47,130	40,941
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,102	6,942
その他(純額)	5,349	5,443
有形固定資産合計	12,452	12,386
無形固定資産	2,414	2,480
投資その他の資産		
投資有価証券	5,498	7,009
長期貸付金	2,547	2,704
その他	5,995	5,449
貸倒引当金	△1,397	△1,422
投資その他の資産合計	12,643	13,741
固定資産合計	27,510	28,608
資産合計	74,641	69,550
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,429	3,449
短期借入金	5,000	3,500
1年内返済予定の長期借入金	568	468
未払金	651	796
未払法人税等	1,585	1,389
賞与引当金	1,510	1,618
役員賞与引当金	32	32
その他	1,604	1,025
流動負債合計	14,381	12,279
固定負債		
長期借入金	536	302
役員株式報酬引当金	141	141
退職給付に係る負債	2,289	308
その他	1,096	1,017
固定負債合計	4,063	1,769
負債合計	18,445	14,048

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	13,774	13,802
利益剰余金	42,741	43,809
自己株式	△2,365	△4,310
株主資本合計	56,265	55,417
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△312	△242
為替換算調整勘定	299	373
退職給付に係る調整累計額	△56	△45
その他の包括利益累計額合計	△69	85
純資産合計	56,195	55,502
負債純資産合計	74,641	69,550

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	25,489	25,132
売上原価	10,942	9,900
売上総利益	14,546	15,231
販売費及び一般管理費	9,426	9,758
営業利益	5,119	5,472
営業外収益		
受取利息	72	89
受取配当金	50	24
為替差益	56	75
事業譲渡益	—	42
その他	15	22
営業外収益合計	194	254
営業外費用		
支払利息	19	14
投資有価証券評価損	1	6
貸倒引当金繰入額	80	25
支払手数料	44	19
その他	55	39
営業外費用合計	201	105
経常利益	5,113	5,621
特別利益		
固定資産売却益	2	6
投資有価証券売却益	—	6
特別利益合計	2	12
特別損失		
固定資産除却損	6	8
特別損失合計	6	8
税金等調整前四半期純利益	5,109	5,626
法人税、住民税及び事業税	1,339	1,249
法人税等調整額	67	343
法人税等合計	1,406	1,592
四半期純利益	3,702	4,033
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,702	4,033

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	3,702	4,033
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9	70
為替換算調整勘定	360	73
退職給付に係る調整額	△43	10
その他の包括利益合計	307	154
四半期包括利益	4,009	4,187
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,009	4,187

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,109	5,626
減価償却費	724	670
長期前払費用償却額	159	159
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	80	25
賞与引当金の増減額 (△は減少)	9	107
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	0
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	108	△1,966
役員株式報酬引当金の増減額 (△は減少)	18	0
受取利息及び受取配当金	△122	△114
支払利息	19	14
有形固定資産除売却損益 (△は益)	3	4
無形固定資産除売却損益 (△は益)	—	△2
投資有価証券評価損益 (△は益)	1	6
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△6
売上債権の増減額 (△は増加)	△201	470
棚卸資産の増減額 (△は増加)	1,156	△621
未収入金の増減額 (△は増加)	△0	575
仕入債務の増減額 (△は減少)	△199	19
未払消費税等の増減額 (△は減少)	181	△217
未払費用の増減額 (△は減少)	97	△111
その他	178	△1,188
小計	7,322	3,453
利息及び配当金の受取額	52	26
利息の支払額	△19	△14
法人税等の支払額	△1,354	△1,591
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,000	1,873
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△319	△441
有形固定資産の売却による収入	19	15
無形固定資産の取得による支出	△814	△368
投資有価証券の取得による支出	△314	△1,417
投資有価証券の売却による収入	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	459
長期貸付けによる支出	△525	△2
長期貸付金の回収による収入	6	5
その他の支出	△10	△29
その他の収入	7	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,951	△1,770
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△300	△1,500
長期借入金の返済による支出	△642	△334
自己株式の取得による支出	△1,948	△2,005
リース債務の返済による支出	△101	△78
配当金の支払額	△3,038	△2,966
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,030	△6,884
現金及び現金同等物に係る換算差額	49	8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,932	△6,772
現金及び現金同等物の期首残高	16,058	18,357
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,126	11,584

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2023年5月10日開催の取締役会決議に基づき、当第2四半期連結累計期間中に、自己株式1,846,500株(取得価額1,937百万円)を取得いたしました。この結果、当第2四半期連結会計期間末の自己株式は4,310百万円となっております。

(会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法については、従来、当社は主に定率法(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法)を、海外連結子会社は主に定額法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より当社においても、将来にわたり、有形固定資産の減価償却方法を定額法に変更しております。

インターベンション事業の終息等に伴い、当社グループの事業構造ならびに製造に関する体制が大きく変化したこと、及び、これらの変化を踏まえた新中期経営計画の策定を契機に、有形固定資産の使用実態に照らして減価償却の方法を再度検討いたしました。この結果、有形固定資産は長期安定的な稼働が見込まれること、急激な技術的陳腐化は見られないこと、今後の投資に対する効果が平均的に生ずると見込まれることなどから、定額法を採用することが費用配分の観点から合理的であると判断したことによるものであります。

これにより、従来の方法によった場合に比べ、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ67百万円増加しております。

3. その他

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績を商品区分別に示すと次のとおりであり、著しい変動はありません。

(単位：百万円)

区分	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	増減率
リズムデバイス	8	5	△33.9%
EP/アブレーション	2,591	2,899	11.9%
心血管関連	514	645	25.5%
消化器	350	262	△25.0%
合計	3,464	3,813	10.1%

(注) 1. 金額は製造原価によっております。

2. 第1四半期連結会計期間より、従来の「外科関連」を「心血管関連」に、従来の「消化器/PI」を「消化器」に名称変更しており、心房中隔欠損閉鎖器具は、旧区分の「消化器/PI」から新区分の「心血管関連」へ区分を変更しております。前第2四半期連結累計期間との比較は、変更後の区分に組み替えた数値で算出しております。

② 受注実績

当社グループの事業形態は、原則として受注残高が発生しないため、記載を省略しております。

③ 販売実績

販売実績につきましては、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。